



1 津波で泥だらけになった写真 2 1枚1枚丁寧に洗浄 3 「素手が一番汚れがわかる」そうです 4 洗った写真を乾燥 5 汚れが落ちて蘇った写真 6 7 アルバムに入れ込みます 8 持ち主が探しやすいよう顔がわかる写真を一番目に入れます



# 大村人

がんばる

## LOSE UP

東日本大震災ボランティア

# 無事を祈って 写真を洗浄

東日本大震災で津波に飲み込まれた写真の数々。泥だらけになった写真を一枚一枚丁寧に洗浄し送り届けるボランティア活動が、市総合福祉センターで行われています。前田さんが中心となって呼びかけ、多いときで十数人が参加。市内に限らず「インターネット」で知り、参加しようと思った。と、長崎、諫早、遠くは福岡県からも参加され、作業が進められています。

現在洗浄している写真は、宮城県亶理郡山元町で被災した持ち主不明のアルバム。油や泥、バクテリアが付着した写真を、手やはけで水洗いします。参加している皆さんは「どんなに汚れている写真でも、持ち主にとってはたくさんの大切な思い出が詰まっているはず。少しでもいいから復元し届けたい。」と使命感を持って取り組んでいます。

始めた頃は、子どもたちの笑顔の写真を見ると「無事だったらいいな」と、涙しながら作業にあたっていたそうです。

普通のボランティアとは異なる「悲しみと喜びのはざま」で、皆さんは持ち主の無事を祈りながら、懸命に写真の復元に取り組んでいます。それは被災者の笑顔を取り戻すため。大村にいてもできることがあります。

●市ボランティア連絡協議会長  
前田 秀樹さん

市内で精力的にボランティア活動を行なっている前田さん。東日本大震災発生後、現地に行くことも考えましたが、「大村にいてもできることはある。」と、写真洗浄のボランティアを始めました。



市総合福祉センターの一室を貸し切り、毎週日・木曜日、午前10時から活動していて、年内には終了する予定です。